

— 目次 —

- 1 第36号発行に添えて ～ご挨拶～
- 2～3 密着リハ紹介 朝日野総合病院
- 4 研修会報告 福祉用具研修会 No2
- 5 脳損傷後の自動車運転の再開について

編集後記



vol. 36  
熊本  
地域リハビリテーション  
広域支援センターNEWS

— 略称・地域リハニュース —

発行日：2023年2月

発行元：熊本地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院

お問い合わせ：熊本機能病院内

〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8-1

TEL：096-341-0511 FAX：096-341-0512 Email：kc-chiikireha@juryo.or.jp

担当：東利雄（理学療法課 課長補佐）

## 第36号発行に添えて

## ～ご挨拶～

こんにちは。立春とは名ばかり、まだまだ寒さが続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？

2020年1月、熊本県で新型コロナウイルス感染者が初めて発生してから、この巻頭言でコロナの話題に触れないことはありませんでした。この新興感染症は人類にとって脅威ではありますが、感染対策がインターネットの発展と普及を促進するという副産物を生みました。環境変化への対応が難しい高齢者でも、スマートフォンを利用したテレビ電話で、遠く離れたお孫さんなどと画面越しに笑顔でお話出来る人が増えてきました。これからの介護予防には少なからず、このようなデジタル技術を利用することは必須と考えています。しかし、インターネットを通じた社会生活の利便性、多様性が進んでいる中、一方では新手犯罪を生み、高齢者や子ども達の生活を脅かす事態も起こっていると認識しています。皆様が便利な道具を上手に安全に利用できるための啓発活動を充実させる必要があると感じています。

世界情勢としては、ロシアのウクライナへの軍事侵攻の終息が見えない中、2月6日にトルコの大地震が発生し、犠牲者は発災後1週間で3万人を超えたと発表されています。ウクライナ・ロシアも含め70か国以上が救助隊を派遣するなど、迅速に支援を開始しました。全世界が心を一つに思いを馳せて、被災者の皆さんが難局を乗り切る力になって欲しいと願っています。

このような中、今年は3年ぶりに熊本城マラソンが開催されます。少しずつ明るい話題が増え、地域の皆様が「笑顔」で「いきいき」と生活されますよう、これからも尽力して参りますのでご支援と協力をお願いいたします。

2023年2月13日

地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院センター長 渡邊進

## 地域密着リハビリテーションセンター 朝日野総合病院様

前回より熊本市北区管内の地域密着リハセンター7施設様に活動の様子をうかがっております。今回は朝日野総合病院総合リハビリテーションセンター、理学療法士の森賢二郎様に御寄稿を頂きました。

### 「アフターコロナにおける地域リハビリテーションの果たす役割」

新型コロナウイルス感染症が2023.5.8より5類へ移行する方針も決まり、いよいよアフターコロナの動きが加速してきました。そんな中、私ども朝日野総合病院で指定を受けている地域密着リハビリテーションセンターでは、地域の老人会で使う健康体操の考案と指導から始まり（この体操は後に「かたんなっせ体操」として市推奨の健康体操となります）、現在は地域の健康福祉祭りへの参加や、総合事業である「くまもと元気倶楽部」や「自立支援型地域ケア会議」への参加、また、その他に公民館での老人サロンに参加し、健康講座や運動指導、運動機能評価などの実施を主な活動としております。また、その活動において、『熊本市高齢者支援センターささえりあ』の「ささえりあ清水・高平」「ささえりあ新地」「ささえりあ子飼」、また『地域リハビリテーション広域支援センター』『熊本機能病院』の皆様と地域リハビリテーションの理念である障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活が送れるように協働して関係機関および地域に住む人々の相談・支援を行っています。

そうして活動を続けていた我々も、2019年から突如発生した「新型コロナ」の猛威に晒され、公民館が使えず、活動の場に参加できないという問題に直面しました。その中でも、屋外のウォーキング活動などは継続され、新型コロナ感染対策を健康講座に取り入れ実践することで、屋内での活動も徐々に再開されていきましたが、やはり公民館活動は活気を失い、アフターコロナの今でも参加者は減少したままです。

そんなアフターコロナの今、地域リハビリテーションのこれからの課題は、コロナ禍により低下した地域住民の皆様の体力をいかに回復させていくことかということだと考えております。先だって行いました運動機能評価では、地域住民の皆様の身体機能面で若干の低下が見られました。また、住民間のコミュニケーションの機会も減り、家庭内の引きこもりによる社会的孤立は、認知症の出現や増悪が懸念されます。

これらの課題に対して、まずは積極的かつ継続的に老人サロンへ参加し、老人サロンの活発化を図ります。老人サロンでは「いつも同じ活動で変化が無い」といった意見を聞くことがあります。そして、そんな老人サロンへお伺いし、活動のお手伝いをすると、「いつもと違って新鮮だった」「来ない人を誘いやすい」といった声も頂きました。そういった活動の広告塔としての役割も持ちたいと考えております。次に、自立支援型地域ケア会議に出席し地域の困難事例の拾い上げや問題の解決に努めたり、運動機能評価によるフレイル予備軍の早期把握に努めたりといった、予防的な取り組みも続けてまいります。

2025年からの新しい地域包括ケアシステムでは、インフォーマルなサービスへの専門職の関わりが重要視されています。私たちもその中でしっかりと役割を果たせるように、地域リハビリテーションに取り組んでまいります。

医療法人朝日野会 朝日野総合病院 総合リハビリテーションセンター  
理学療法士 森賢二郎



### 健康講和

新型コロナウイルス感染予防の講習を行いました。

### 体操教室

肩こり腰痛予防体操。密にならないように間隔を空けています。



### ポールウォーキング

屋外での活動はコロナ禍でも継続して開催されました。

よろしくお祈いします！



## 熊本地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院

### 「第2回研修会」

令和4年11月16日(水)に2022年度 熊本地域リハビリテーション広域支援センター「第2回研修会」の講師を務めさせていただきました。前回に引き続き、「福祉用具の活用と導入のポイントーセルフケアにおける福祉用具の活用法ー」として、利用者さんが日常生活で使用する福祉用具の活用方法や導入のポイントに関してお話ししました。今回も生活期リハビリテーションに関わるケアマネジャーや保健師、理学療法士や作業療法士など多職種の皆様にご参加をいただき、講義終了後は活発な質疑応答も行われました。

内容は利用者さんや家族に対して「時間」、「空間」、「人」の視点から、各セルフケアにおける福祉用具の活用法、事例紹介などをお話させていただきました。

中間ユーザーにあたる私たちは利用者さんを評価し、能力に応じた福祉用具の選定を行い、利用する時間や空間、支援者の介護力等も視野に入れた支援が重要になります。また、残された能力を最大限に活かしながら、福祉用具を使用し自立を促すことが活動と参加に繋がり、QOLの向上や生活空間の拡大に寄与します。専門職として利用者さんの病前の生活や生活機能の遂行状況を評価しながら、正しく福祉用具を導入し、有効に活用できるよう支援することが重要です。

2022年度 熊本地域リハビリテーション広域支援センター 第2回研修会

### 福祉用具の活用と導入のポイント

ーセルフケアにおける福祉用具の活用法ー

CONTENTS

- 前回のおさらい
- 時間・空間・人の視点
- 生活構造の視点
- セルフケアの実際
- 事例

社会医療法人 寿量会 熊本機能病院  
作業療法士 江原 加一

### はじめに

- **機能予後予測 (特に 歩行)**  
画像診断 (CT・MRI)  
正確なアセスメント
- **正常なアライメント**
- **正常な運動**
- **福祉用具の利用**  
肩装具、下肢装具、ベッド、マットレス、車椅子  
**自然回復の邪魔を取り除き、自然回復を助ける**

### 福祉用具の定義

『介護保険法』(平成12年)

「心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障がある要介護者等の日常生活上の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、要介護者等の日常生活の自立を助けるためのものをいう。」

### 福祉用具と介護保険

福祉用具貸与・販売サービスは、介護保険制度の居宅サービスの一つとして位置付けられている。

**原則レンタル支給**ですが、再利用に心理的抵抗感が伴うもの、使用により形態・品質が変化するのは「特定福祉用具」として販売対象になる。

**要介護度によって使用できる種目に制限**がありますのでご注意ください。

熊本機能病院 総合リハビリテーション部 作業療法士  
江原 加一



## 脳損傷後の自動車運転の再開について

近年、高齢者や病気に罹患したドライバーによる交通事故が社会的な問題になっています。運転に支障をおよぼす病気について、道路交通法の中で“一定の病気”として定められ、脳卒中や外傷等による脳損傷による高次脳機能障害が含まれます。この高次脳機能障害によって運転に必要な「認知・判断・操作」に支障をきたす場合があります。そのため、高次脳機能の評価やリハビリテーションは医療に求められる大きな役割となっています。

当院では、ご入院患者様を対象に脳卒中後の自動車運転再開に向けた支援を行っています。安心安全に運転を再開するため、個々の症状に見合った評価・支援を実施します(右図)。評価やリハビリテーションには、専用のドライビングシミュレーターを使用します。また、必要に応じて連携している自動車教習所で実車評価を行う場合もあります。多くの患者様が運転支援のリハビリテーションを通じて運転を再開されています。

また、再開できなかった場合、免許返納に関する情報提供や交通代替手段の提案を行います。返納後も生活の質を維持できるように支援します。

自動車運転再開の希望



医師からの説明



セラピストによる面談



神経心理学的検査と身体検査



教習所での実車評価



診断書の作成

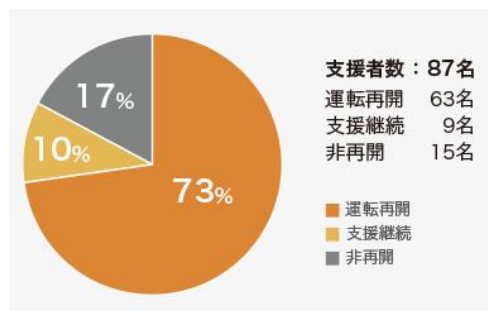


運転免許センターでの適性検査



運転再開

### ◆ 運転再開へ向けた支援の流れ



### ◆ 2020年度 運転支援の実績

### ◆ 自動車教習所での実車評価

### ◆ ドライビングシミュレーター

熊本機能病院 言語聴覚士 竹谷剛生

編集後記 前回より熊本市北区管内の地域密着リハセンター7施設様に御寄稿いただいています。今回は朝日野総合病院様に御寄稿頂きました。御寄稿の通り、アフターコロナに向けて皆さんと協力しながら地域リハビリテーションに取り組んでいきたいと思っております。